

2022年度 入学者受入れの方針に照らした大学入学者選抜の取組の適切性に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの志ふり返り（学科／研究科専攻の入学者受入れの方針）」のデータを活用した検証です。学科の入学者受入れの方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記の URL）をご覧ください。

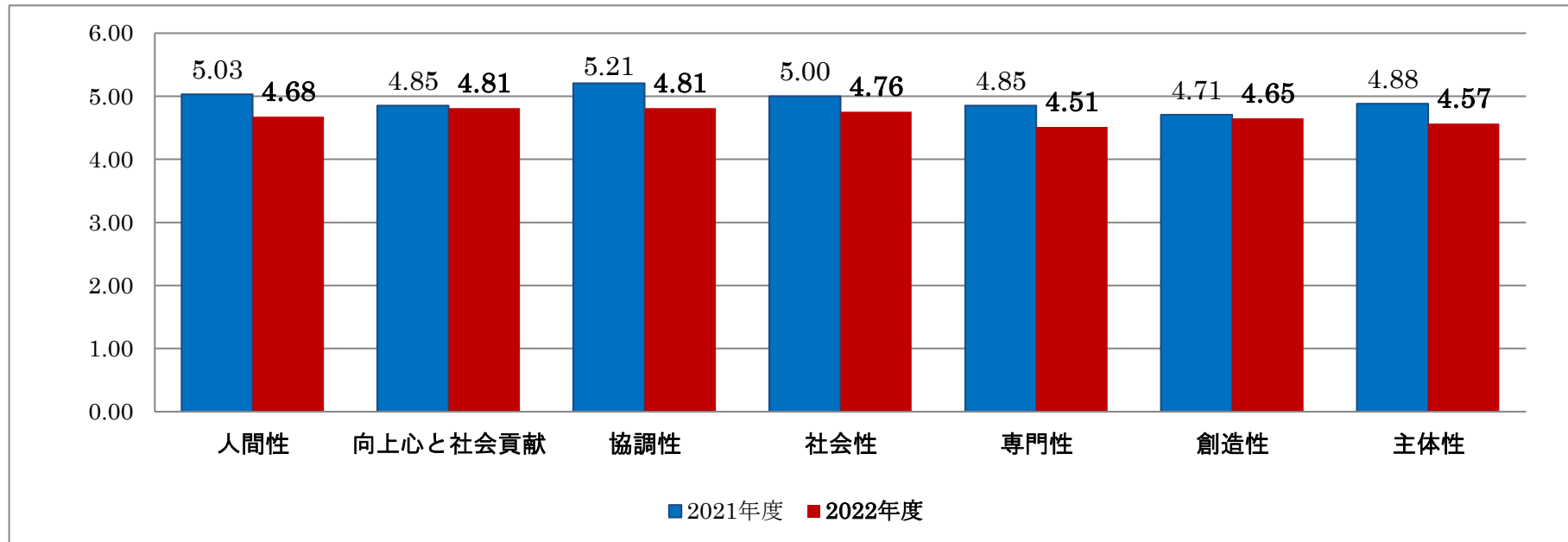
<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

作業療法学専攻 2022年度・回答率 90.2%（2021年度・回答率 85.0%）。

本専攻のアドミッションポリシーに対応する7項目について、6件法（全くそう思わない～非常にそう思う）で回答し、それらを1～6点に換算して平均点を算出した。その結果、「人間性」4.68、「向上心と社会貢献」4.81、「協調性」4.81、「社会性」4.76、「専門性」4.51、「創造性」4.65、「主体性」4.57と7項目全てにおいて肯定的な回答である4（ややそう思う）以上であった（7項目平均4.68）。昨年度と比較すると、今年度は全項目平均で0.25ポイント下回っているが、5（そう思う）に近似した高い水準であることから、本専攻が求める学生像に相応する妥当な入学者の選抜を行っていると考えられる。

以上より、2022年度の入学生においては、「入学者受入れの方針に照らした入学者選抜の取り組み」として適切であったと判断した。ただし、創造性の項目においてスコアが低い傾向にあるため、入学後の授業や演習、臨床実習の中での学修を通じて、能力の向上につながる取り組みが必要である。



理学療法学専攻

2022年度・回答率 入学時 95.8%、1年生終了時 95.8% (2021年度・回答率 85%)。

本専攻のアドミッションポリシーに対応する1～13の各項目について、6件法(全くそう思わない～非常にそう思う)で回答し、それらを1～6点に換算して平均点を算出した。また、13ある小項目の各点数は以下の5つの大項目に集約して集計した。

入学時：「人間性」 5.54 : 1. 倫理観 (5.52)、2. 他者への共感 (5.57)、3. 他者への支援 (5.54)、「専門性」 5.43 : 4. 専門性への興味 (5.48)、5. 学びのつながり (5.39)、「協調性」 5.57 : 6. 人とかかわる姿勢 (5.61)、7. 良好な関係作り (5.59)、8. 立場と責任の自覚 (5.52)、「創造性」 5.33 : 9. 探求心 (5.43)、10. 論理性 (5.30)、11. 創造性 (5.24)、「自己研鑽」 5.54 : 12. 省察と課題の発見 (5.48)、13. 発展性と継続的な努力 (5.61)

終了時：「人間性」 5.12 : 1. 倫理観 (5.05)、2. 他者への共感 (5.19)、3. 他者への支援 (5.12)、「専門性」 5.01 : 4. 専門性への興味 (5.02)、5. 学びのつながり (5.01)、「協調性」 5.16 : 6. 人とかかわる姿勢 (5.19)、7. 良好な関係作り (5.14)、8. 立場と責任の自覚 (5.14)、「創造性」 4.86 : 9. 探求心 (4.88)、10. 論理性 (4.88)、11. 創造性 (4.81)、「自己研鑽」 4.87 : 12. 省察と課題の発見 (4.88)、13. 発展性と継続的な努力 (4.86)

上記の結果からみて、5項目のすべてにおいて中間点の3.0を約1.8～2.5ポイント上回っており、本専攻が求める学生像が多く入学していることが伺われた。また、昨年度と比較すると全体的にスコアは増加傾向にあり、さらに全て4.8ポイントを上回る高水準にあった。また、入学時と終了時との比較では、すべての項目で入学時の方が高かった。入学時は強い意志をもって受験しているため、若干、自己評価が高いものと考えられた。しかし、1年終了時には大学生活では高校生よりもより高度な、「人間性」、「専門性」、「協調性」、「創造性」、「自己研鑽」が求められることを知り、自己評価が低下したことが考えられた。

以上の結果より、2022年度の入学生においては、「入学者受入れの方針に照らした入学者選抜の取り組み」として適切であったと判断した。その中で、1年終了時において創造性(4.86)、自己研鑽(4.87)のスコアが低い傾向にあるため、入学後の授業や演習、臨床実習の中での学修を通じて、これらの能力の向上につながる取り組みが必要と考える。

